

助産学実習Ⅲ産褥期・新生児

I. 目的

産褥期・新生児の助産診断と褥婦及び新生児へのケアができる能力を養う。

II. 目標

1. 褥婦の健康診査及び家族とともに快適な日常生活が過ごせるように健康管理できるよう支援する能力を習得できる。
2. 褥婦の異常経過の診断と適切な援助ができるための基礎的能力を習得できる。
3. 新生児が母体外生活へ適応するために必要な健康診断ができる能力を習得できる。

III. 実習施設

国立病院機構岡山医療センター
国立病院機構福山医療センター
国立病院機構高知病院
国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター
国立病院機構東広島医療センター
国立病院機構浜田医療センター
岡山中央病院
サン・クリニック
赤堀クリニック

IV. 単位数および時間数

2 単位 90 時間

V. 教育内容

1. 褥婦の健康診査
2. 保健指導（育児指導、授乳指導、家族計画、沐浴指導）
3. 新生児の健康診査
4. ハイリスク新生児のケア
5. NICU の管理

VI. 実習目標・行動目標・実習内容

| 実習目標 | 行動目標 | 実習内容 |
|--|--|--|
| <p>1. 褥婦の健康診査及び家族とともに快適な日常生活が過ごせるように健康管理できるよう支援する能力を習得できる。</p> | <p>1. 褥婦の健康診査ができる。</p> <p>2. 産褥期の助産診断と適切なケアができる。</p> <p>3. 褥婦および家族に対して必要な保健指導ができる。</p> | <p>1. 褥婦の健康診査と情報収集</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 退行性変化、進行性変化、一般状態の健康診査 2) 妊娠経過、分娩経過の情報 3) 褥婦および家族の心理・社会的側面 <p>2. 産褥期の助産診断とケア</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 経過診断 産後日数に応じた褥婦の復古現象、進行性変化一般状態の良否 2) 健康生活診断 <ol style="list-style-type: none"> (1) 基本的生活行動 (2) 精神・心理的生活行動 (3) 社会的生活行動 (4) 出産育児行動 3) 産褥期のケア <ol style="list-style-type: none"> 1) 退行性変化の促進 2) 母乳育児推進と乳房ケア 3) セルフケアへの支援 4) マイナートラブルへの対応 5) 心理・社会的側面への援助 <p>3. 褥婦、家族への保健指導</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日常生活の過ごし方ー動静、清潔、栄養 2) 授乳への援助ー授乳時ポジショニングの指導 乳房のセルフケア 3) 育児への援助ー日常生活に応じた育児方法 4) 産後の性生活ー家族計画、産後の避妊、受胎調節法 5) 社会資源の活用ー各種届出、家庭訪問制度、保健所・他機関の活用、自助グループ活動など 6) 家族関係の円滑化に向けてー家族の価値観の尊重、家族の役割認識、母子（父子）関係の強化 |
| <p>2. 褥婦の異常経過の診断と、適切な援助ができるための基礎的能力を習得できる。</p> | <p>1. 褥婦の異常経過の診断と適切な援助の方法を理解できる。</p> | <p>1. 褥婦の異常経過の診断と援助</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 産褥中に起こりやすい異常その徴候、診断 子宮復古不全、感染症（産褥熱）、会陰切開・裂傷の縫合不全、血栓性静脈炎、深部静脈血栓症、肺塞栓症 尿路感染症、マタニティブルー、産褥うつ、産褥期精神病、乳腺炎 2) 緊急を要する場合の状態の判断、救急処置、緊急時の連絡 3) 異常時、褥婦や家族の心情を理解した援助 |

| 実習目標 | 行動目標 | 実習内容 |
|---|---|--|
| <p>3. 新生児が母体外生活へ適応するために必要な健康診断ができる能力を習得できる。</p> | <p>1. 新生児の健康診断ができる。</p> <p>2. 新生児の助産診断と母体外生活へ適応するための援助ができる。</p> <p>3. 母親と家族に育児の指導ができる。</p> <p>4. ハイリスク新生児の病態・治療・ケアを理解できる。</p> | <p>1. 新生児の健康診査</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 出生から 24 時間以内の身体診察 <ol style="list-style-type: none"> (1) 身体計測（身体発育曲線との比較） (2) 成熟度の診断（身体所見、神経学的所見） 2) 出生 24 時間以後の発育・発達の診断 <ol style="list-style-type: none"> (1) 系統的診察、神経学的特徴 (2) 先天性の奇形等 (3) 日齢に応じた生理的変化 <p>2. 母体外生活への適応の診断と援助</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 呼吸・循環・体温の観察と判断 2) 正常逸脱の診断（異常徴候の観察） <ol style="list-style-type: none"> (1) 呼吸器症状：呼吸障害 (2) 循環器症状：チアノーゼ、心雑音 (3) 異常体温：低体温、高体温 (4) 神経・筋の症状：筋緊張、けいれんなど 3) 退院時の健康診査 4) スクリーニング検査 <ol style="list-style-type: none"> (1) 先天性代謝異常検査（ガスリー検査） (2) 聴覚検査 5) 母体外生活への援助 <ol style="list-style-type: none"> (1) 呼吸確立のための援助 (2) 基本的ニーズへの援助 保温、栄養、安静、清潔、感染防止 <p>3. 母親と家族への育児指導</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 養育能力の査定 2) 親子関係確立への援助 3) 母親と家族への育児指導 <ol style="list-style-type: none"> (1) 個別指導：母児同室、育児指導、乳房ケア 沐浴指導、退院指導 (2) 小集団指導：退院指導 <p>4. ハイリスク新生児の病態・治療・ケア</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ハイリスク新生児の主な疾患・病態・主要症状・治療 <ol style="list-style-type: none"> (1) 早期産児の特徴 (2) 主な病態と診断、治療 胎便吸引症候群 (MAS)、高ビリルビン血症、感染症、新生児仮死など (3) 主な検査、ME 機器 (4) 主な処置 (5) 新生児受入れ時に必要な機器・物品の準備 (6) 異常の早期発見 「not doing well (なんとなくおかしい)」 2) 低出生体重児の身体機能や特性をふまえた看護の原則 <ol style="list-style-type: none"> (1) 身体機能・特性の理解 正期産児、早期産児の外表的、神経学的発達の違い |

| 実習目標 | 行動目標 | 実習内容 |
|------|--|---|
| | <p>5. ハイリスク新生児の母親とその家族への援助が理解できる。</p> <p>6. ハイリスク新生児の出生の背景を理解し、助産師の果たす役割について考察する。</p> <p>7. NICU の管理について理解できる。</p> | <p>(2) 看護の原則 呼吸管理・保温・栄養・愛護・感染防止</p> <p>(3) ディベロップメンタルケア</p> <p>(4) 児のストレスサイン</p> <p>5. ハイリスク新生児の母親とその家族への援助</p> <p>1) ハイリスク新生児をもつ両親の気持ちのプロセス</p> <p>(1) 児の状態と医師からの説明内容、受け止め方</p> <p>(2) 両親のサポート体制</p> <p>2) 愛着形成への支援、親役割獲得への支援</p> <p>3) 意思決定支援</p> <p>4) ソーシャルワーカー、臨床心理士との協働、連携</p> <p>5) 地域社会資源の活用</p> <p>6. 出生の背景と助産師の役割の考察</p> <p>1) 今回の妊娠経過および分娩経過</p> <p>2) 妊娠中の助産師のケア、分娩時の助産師の対応</p> <p>3) 出生時の児の健康状態、治療経過、予後</p> <p>4) NICU 入院時から現在までの経過</p> <p>7. NICU・GCU の管理</p> <p>1) NICU・GCU におけるチーム医療とその職種、協働</p> <p>2) 搬送および周産期医療システムの理解</p> <p>3) 退院後のフォローアップ体制</p> <p>(1) 未熟児養育医療、育成医療</p> <p>(2) 保健所、児童相談所との連携</p> <p>(3) 自助グループの紹介</p> <p>4) リスクマネジメント</p> <p>(1) 児にとって望ましいNICU の環境</p> <p>(2) 感染防止 minimal handling</p> <p>(3) 児にとってストレスとなるケア</p> <p>(4) 危険予測と危険回避</p> <p>(5) 現在取り組まれている最新ケア</p> |